



写真—1 会場近接のモノレール駅から見た CONEXPO-CON/AGG 2005, Silver Lot 展示場

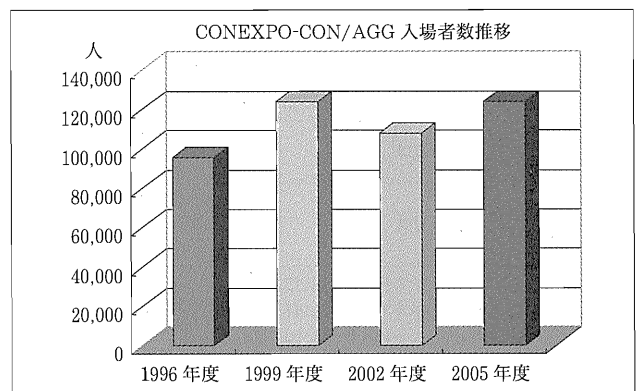
### 1. はじめに

平成 13 年（2001 年）9 月 11 日以前と以後では世界の動きが大きく変わった。いわゆる「民間航空機を使った世界貿易センタービルテロ爆破事件」に起因する世界の政治経済の変化である。当視察団は、先ずニューヨークのそのテロ爆破現場を確認した。

20 世紀後半は「東西冷戦構造と南北格差」と言う 2 軸 2 極で言い表せたが、21 世紀を待つまでもなく、先ず 1988 年 11 月 9 日のベルリンの壁の崩壊があり東西ドイツが統一された。その後の 1991 年 12 月 25 日のソ連邦消滅後は、世界政治、経済地図は勿論、産製品から日常生活品までグローバル化（米国化に非ず）した国際社会の中で、「質・価格・流通」の多様化が始まった。これらの歴史の中で行われて来た米国建設機械展にも、そのような世界の変化の一端が様々な形で現れている。

今回の CONEXPO-CON/AGG 2005、米国建設機械展（写真—1）は、今世紀 2 度目の建設機械展である。9.11 の翌年実施された前回は、図—1 で明らかなように入場者も 13% ほど減少し、今回ようやく 1999 年並に回復した。因みに入場者の実数は 1996 年度：95,532 名、1999 年度：124,264 名、2002 年度：107,995 名、2005 年度：124,220 名と発表されている。

今回の CONEXPO-CON/AGG 2005 の特徴は、「2006 年以降、建設機械にも馬力の大きいものから逐次導入されるエンジンの排ガス規制『Tier 3/Stage 3 a』導入前の最後のモデルの展示会で、今日までのモデルの総決算的な展示会』であると幾つかのメーカーから説明があった。幾つかのエンジンメーカーが「Tier 3/Stage 3 a 排ガス規制」対応のディーゼルエンジンモデルを展示しており、次回の CONEXPO-CON/AGG 2008 は、これらの対応建設機械がお目見えするはずである。「Tier 3/Stage 3 a 排ガス規制」の適応は、エンジン出力ごとに適応年度が変わり、2006 年：130～560 kW、2007 年：75～130 kW、2008 年：56～75 kW になると、現地建設機械メーカーの説明があった。それ以下の小型の適応年度は現在未定の由である。



図—1 CONEXPO-CON/AGG 入場者数の推移

今回の社団法人日本建設機械化協会主催の視察団の目的の多くは、これら建設機械の技術的な対応策の確認であり、関係者の要望と視察目的を次のように絞り対応した。

- ① 情報化施工，自動化施工建設機械の動向
- ② 環境保全対策型建設機械の動向
- ③ 建設プラント，ロボット，無人化機械
- ④ 韓国，中国建設機械メーカーの動向
- ⑤ 日本の建設機械メーカーの動向
- ⑥ 来場者の実態，集客状況

これらの項目を限られた2日間，所要時間を目一杯に使って視察した。以下はその報告である。

## 2. 日本建設機械化協会海外視察団日程

CONEXPO-CON/AGG 2005 参加に先立ち，東京から一路ニューヨークに飛び，「世界貿易センター跡地復興工事現場」を視察した。その模様の一部を本報告書の最終ページ（9章）に報告した。

今回の海外視察の全工程は旅程表（表一）の通りで，太平洋横断，北米大陸横断の全工程を8日間で駆抜けた，空の移動の多い視察だった。建設機械に関わる専門視察を主に考えれば，東海岸のニューヨークと西海岸近くのラスベガスの組み合わせに若干無理があったと，団員からの意見

表一 旅程表

日数	月 日 (曜日)	訪問都市名	現地時間	交通機関	摘要
1	平成17年 3月13日 (日)	東京(成田1)発 ニューヨーク (JFK)着	16:55 15:20	UA 800	ユナイテッド航空でニューヨークへ (所要時間:12時間25分) (ニューヨーク泊)
2	3月14日 (月)	ニューヨーク			終日，建設機械専門分野視察 (世界貿易センター， トランスポートーション ハブ視察) (ニューヨーク泊)
3	3月15日 (火)	ニューヨーク			午前中，ニューヨーク市内視察 午後，自由視察 (ニューヨーク泊)
4	3月16日 (水)	ニューヨーク (LGA)発 シカゴ着 シカゴ発 ラスベガス着	09:00 10:48 11:55 13:50	UA 835 UA 1595	シカゴ経由ラスベガスへ (所要時間:2時間40分， 3時間55分) (ラスベガス泊)
5	3月17日 (木)	ラスベガス			CONEXPO 2005 視察 (ラスベガス泊)
6	3月18日 (金)	ラスベガス			CONEXPO 2005，個別 現場視察 (ラスベガス泊)
7	3月19日 (土)	ラスベガス発 サンフランシスコ着 サンフランシスコ発	10:12 11:47 13:00	UA 1511 UA 853	ユナイテッド航空で帰国 (所要時間:1時間35分， 11時間00分) (機中泊)
8	3月20日 (日)	東京(成田1)着	17:00		通関後，成田空港で解散

が聞かれた。海外視察現場も CONEXPO-CON/AGG 2005 の会場近くの西海岸に纏めるなど，旅程の工夫も必要であると感じた。

### 団員の構成

昨今の厳しい経済状況の影響を受け，参加者が伸びず，参加者に対するエージェントの説明会の際には，最小限の参加者を確保出来たので安堵したとの話しが関係者から聞かれた。そのような中で実現した今回の海外視察では，14名の団員がそれぞれ満足出来るよう視察目的を絞り，成果を期待することにした。表一2が参加者の名簿と各人の視察目的である。

表一2 海外視察団参加者名簿及び参加目的

(敬称略/五十音順)

No.	氏名	所属名・役職	主要視察目的・項目
1	◎相原正之	(社)河川ポンプ施設技術協会事務局長	建機に留まらず，今回の出張を利用して関連施設の視察も行いたい。
2	阿部 誠	万六建設(株)舗装部長	道路施工会社の機械部門の責任者なので舗装機械，特殊運搬車輦に興味がある。
3	安部雅則	朝日機材(株)東京本店機材部長	客先ニーズにこたえるため世界市場にある機械情報を収集する。
4	尾高俊夫	三協機材(株)常務取締役営業本部長	砕石機械の最新情報と，道路整備・建設機械の実情を出来るだけ幅広く吸収する。
5	菊地 稔	施工技術総合研究所技術部長	環境，福祉，情報化等の分野。特に国内で見られない最先端の技術等を期待している。
6	三枝宏貴	(社)日本建設機械化協会総務部課長代理	建機は勿論，米国社会を広く視察し，世界規模の視野をもち，今後の業務に反映させたい。
7	○白井 一	(株)テラグリーン代表取締役社長	道路整備・建設機械の今後の動向調査と，米国市場向けの建機の特徴を探る。
8	田島 博	(社)建設荷役車両安全技術協会経理部長	専門は経理なので技術面より，米国建機市場と米国社会を概観したい。
9	似田貝光亀	東亜道路工業(株)顧問	建機・道路機械の専門家ではないが，業界の関連機械を数多く見，かつ米国の実情を知りたい。
10	藤野昭光	朝日機材(株)大阪支店機材部機材課長	荷役機械，リースの客先ニーズに合った機械を中心に展示場を見て回りたい。
11	細谷悦雄	(社)日本建設機械化協会企画部長	次回の日本での CONET，建機展に役立つ情報を出来るだけ多く収集したい。
12	山下利昭	(株)浅野歯車工作所課長	動力伝達関係ユニットを主に最新技術動向を集めると同時に，視察参加後，米国の顧客訪問を計画している。
13	吉田 学	(株)東峯技術コンサルタント技術第2部取締役部長	主要業務が顧客に対する技術情報を供与するコンサルタントなので多くの技術情報を収集する。
14	稲葉正幸	テイ・シー・アイ・ジャパン(株)添乗員	ツアー参加者の安全と満足を得るために搭乗員として努める。

補記：◎印；団長 ○印；報告者。各参加者の視察目的等は，報告者が視察期間中にヒアリングして纏めたものである。

今回の参加者は，日本建設機械化協会関係者をはじめとして団長の相原正之氏も含め，業界から幅広い参加者があり，比較的静かな視察団だった。写真一2は最初に訪問した「世界貿易センター跡地復興工事現場」視察の際の，ニュー



写真—2 視察団員とニューヨーク市港湾局受入れ責任者との記念写真 (NY-NJ 港湾局事務所ホールにて)

ヨーク・ニュージャージ港湾局事務所にて撮影したものである。港湾局の担当者への感謝の意もこめて紹介したい。

### 3. CONEXPO-CON/AGG 2005

#### (1) 名刺不要のカatalog請求

展示会ではカatalogや資料を入手する度に、名刺を手渡したり、住所・氏名を記入する光景が見られるが、今回は磁気カードを使った事前登録が行われ、図—2で紹介した登録証・エキスポカードが全てそれらの作業を代行してくれた。展示場の各社の受付には、そのカードを差込む入力

機械が用意してあり、たちどころに登録作業を行う。出展者、参加者の両方に極めて有用であり、参加者の集計にも威力を発揮する。生きたIT化の恩恵を受けた気がする。又IT化の普及に伴い、会場での見学の前に事前の準備が容易になった。CONEXPO-CON/AGG 2005のホームページを訪問し、会場案内や出展者を調べ、あらかじめ予備知識を得てから訪問すると、途轍もなく広い会場も効率よく回れる。報告書の発表ページの制約もあり、今回は一般的なデータは以下のホームページで確認出来るので割愛した。興味のある方は是非利用していただきたい (<http://www.conexpoconagg.com/>)。

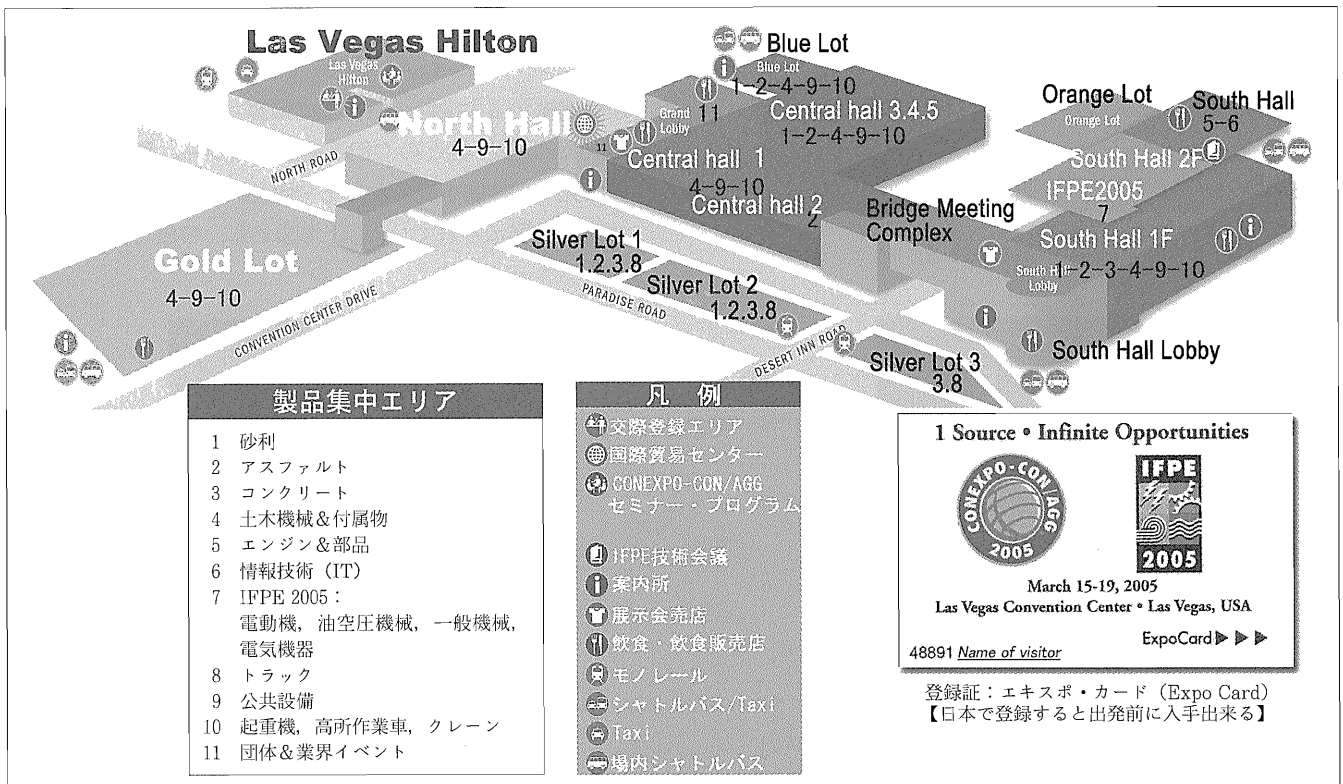
### 4. 日本企業の出展社

視察目的の一つは、日本企業の活躍を見る事である。主な出展社は表—3の通りだが、現地代理店を通して出展しているメーカーもあり、実数はもう少し多い。建設機械関係を主に、以下展示機械を紹介する。会場の主要建設機械はグラビヤで紹介しているので、本報告ではトピックスになるような機械を主に紹介する。

#### (1) コマツ (写真—3, 写真—4)

—テーマ (スローガン) : Focused in your success—

「お客様を成功に導く」という趣旨の由。建設機械・鉱山機械の総合メーカーと言う立場から、様々な機械の使用方



図—2 CONEXPO-CON/AGG 及び IFPE 会場と出展製品エリア案内

表-3 主な日本企業の出展社

出展者(五十音)	出場場所	主な展示品
石川島播磨重工業	中央ホール	小型掘削機
いすゞ自動車	南ホール2F 屋外金区画	エンジン トラック架装クレーン
川崎重工業	南ホール2F	エンジン
クボタ	中央ホール 南ホール2F	油圧ショベル, 運搬車 エンジン
コベルコ建機	屋外金区画	油圧ショベル, クレーン
コマツ	北ホール	土工・建設機械全般
酒井重工業	屋外銀区画	転圧機械
ソキア	南ホール2F	測量機器
タケUCHI	屋外金区画	小型油圧ショベル, 運搬車
タダノ	屋外金区画	移動式クレーン
ツルミ	中央ホール	水中ポンプ主体
東芝	南ホール2F	電動機器
トプコン	南ホール2F 屋外銀区画	測量機器 位置制御機器
(社)日本建設機械化協会	ロビー	CONET 紹介
日立建機	北ホール	油圧ショベル
ホンダ	中央ホール	エンジン発電機主体
アメリカホンダ	南ホール2F	汎用エンジン
三菱重工業	南ホール2F	汎用エンジン
三菱ふそうトラック	南ホール1F	トラック
山信工業	南ホール2F	オイルフィルタ
ヤンマー	中央ホール 南ホール2F	小型掘削機 小型エンジン

(注) 本表のオリジナル纏め: 相原正之団長

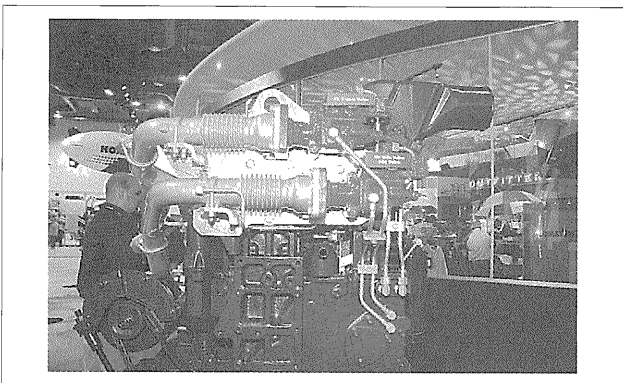


写真-3 Tier 3/Stage 3 a 排ガス規制適応新型エンジン

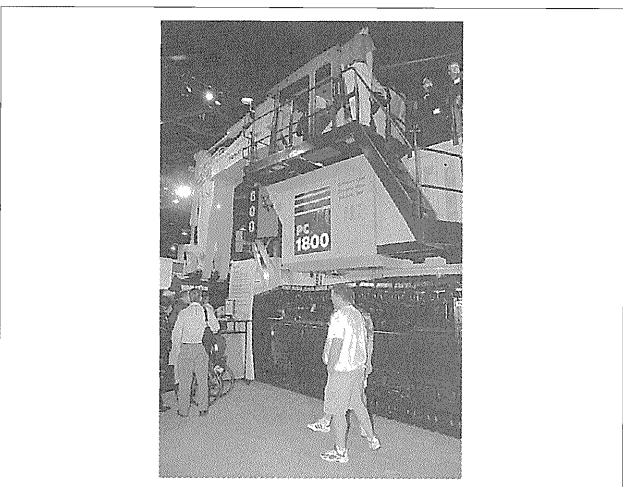


写真-4 (下) 大型油圧ショベル PC 1800

法を提示し、客先ニーズにこたえる事を願っているとの説明があった。大型油圧ショベルからミニ建設機械まで多彩なバリエーションの展示があり、特に来年から適応される新規「Tier 3/Stage 3 a」対応のエンジンが目を引いた。

(2) コベルコ建機 (写真-5)

一テーマ (スローガン): 最高品質の機械を提供する—  
 米国市場で25%のシェアを占める、90~160トンクラスの汎用性の高いクローラクレーンの商品系列と、ミニから大型まで油圧ショベルに特化し、「アメリカ魂を込めた商売の展開」を図る意図から、アメリカンイーグルをボディペインティングした油圧ショベルを展示した、と言う説明があった。



写真-5 ミニから大型まで幅広い油圧ショベルを展示

(3) 日立建機 (写真-6)

一テーマ: John Deere 社との協力体制構築の下に、小型建設機械から大型鉱山機械まで顧客ニーズにこたえる—  
 John Deere 社との OEM 提携関係から、両社ブランドの販売へと体制を変えたことで両社のブランドが同じ会場に並んで展示されていた。「米国でも、日欧で人気の高い

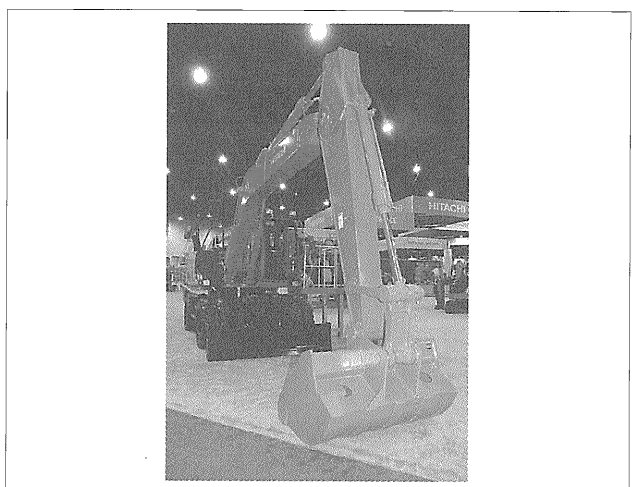


写真-6 米国で需要の多いホイール式油圧ショベル

小旋回、ホイール式油圧ショベルの需要が出てきているのが特徴」と、同展示場の関係者から説明があった。

(4) 酒井重工業 (写真一7)

—テーマ：米国での酒井ブランドの更なる成長—

転圧機メーカーの酒井重工業は近年、年率50%を超える拡販が続いていると言う。今後も更なる成長を期待し好調な鉄輪振動ローラに加え、世界唯一と言われるGW750タイヤ振動ローラを投入していた。

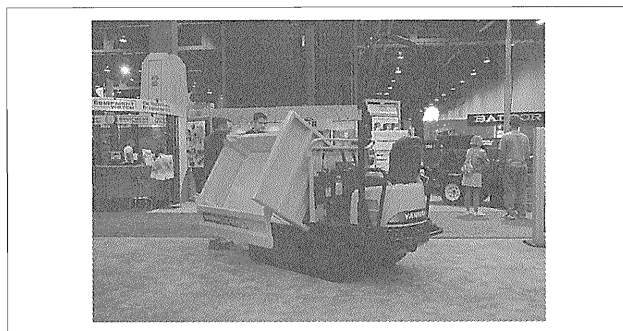
日本で活躍する道路整備機械は自動車や建設機械と違い、昔から欧米ブランドが多く、逆に欧米に進出している日本のメーカーが少なからず、自動車、建設機械に続く日本メーカーの活躍に期待したい。



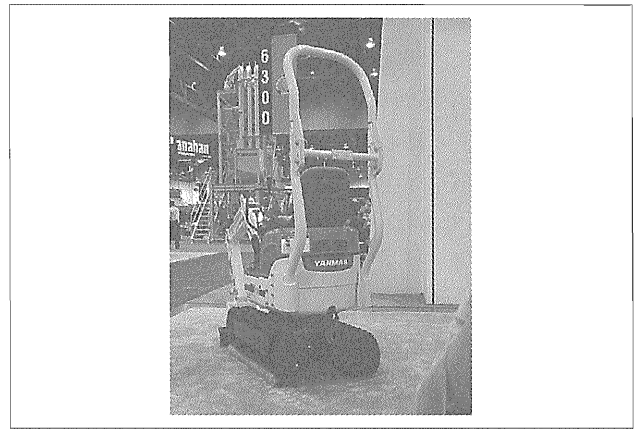
写真一7 高周波を謳う振動ローラの野外展示場

(5) ヤンマー (写真一8, 写真一9)

日本では既に多くの実績のあるミニ建設機械だが、大型機械の好まれる米国でも販売実績が増えてきているのがミニ建設機械である。ヤンマーブランドのミニ建設機械も、日本欧州同様、既に米国でも認知され好評の由である。ヤンマーはゴム履帯式の油圧ショベル、運搬車のほか小型ホイールローダを展示していた。



写真一8 ゴム履帯式運搬車



写真一9 ゴム履帯式超ミニ油圧ショベル

(6) クボタトラクター (写真一10)

米国の庭園作業は日本の一寸した農作業に匹敵することから、小型の土木作業機が沢山使われている。

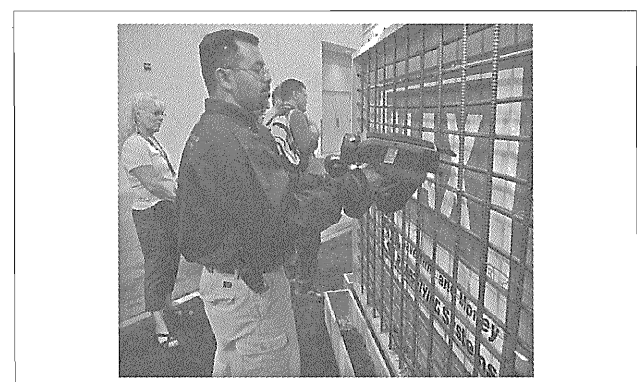
その一つがバックフォローダで、日本では想像出来ないほど普及している。クボタも日本で馴染みのミニ油圧ショベルの他にバックフォローダを出展していた。入場者も、興味深いバックフォローダに乗り、楽しそうに操作感を確かめている光景が見られた。



写真一10 クボタ小型油圧ショベル

(7) MAX (写真一11)

圧搾空気式の釘打ち機やホッチキスで実績のある同社は、

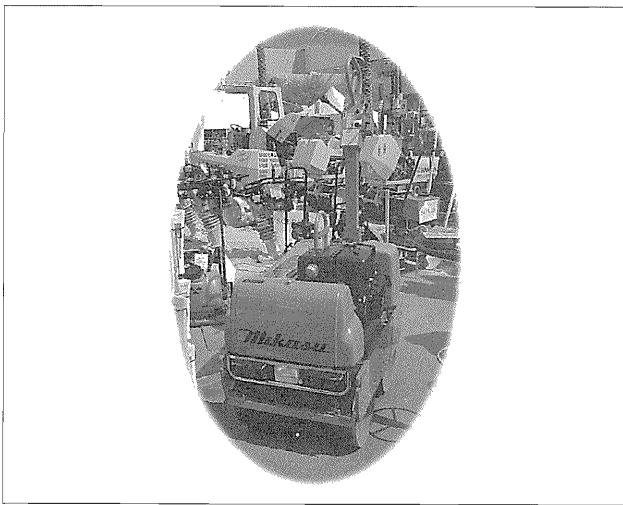


写真一11 電池式鉄筋結束機

会場にデモ用の鉄筋を組上げ、充電バッテリー式の鉄筋結束機の展示を行っていた。僅か数秒で結束するこの機械の威力に、昔ながらの鉄筋職人の結束風景を見て来た報告者は「すごいナーッ」と感心するばかりであった。大きな建設機械ばかりでなく、このように小さな機械のイノベーションも日本の強みであり、意を強くした次第である。

#### (8) ミカサ (写真—12)

写真—12のハンドガイド振動ローラを、代理店を通して展示している。日本では古くから見慣れているブランドを米国建機展の会場を目にした。歴史と実績のある欧米の道路整備機械メーカーの中で、日本の小型転圧機が存在を報告しておきたい。



写真—12 ミカサハンドガイド振動ローラ

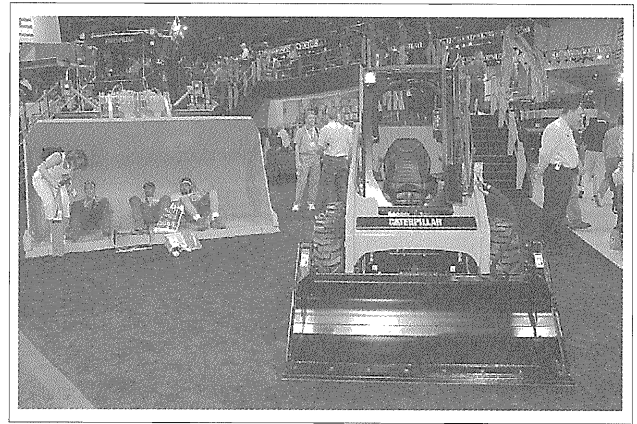
### 5. 地元北米企業の出展会社

CONEXPO-CON/AGG 2005 開催国の地元の米国とカナダからは、文字通り「盛り沢山」の企業が参加している。沢山ある中で、日本の建設機械化にかかわる業者と、報告者の目から見て是非日本の業界の方々に紹介したい、幾つかの展示場を紹介する。

#### (1) Caterpillar Inc. (写真—13, 写真—14)

—テーマ：Count on CAT (キャタピラーにお任せ；①コスト管理，②生産性向上，③現場作業の安全性向上，④法令順守)—

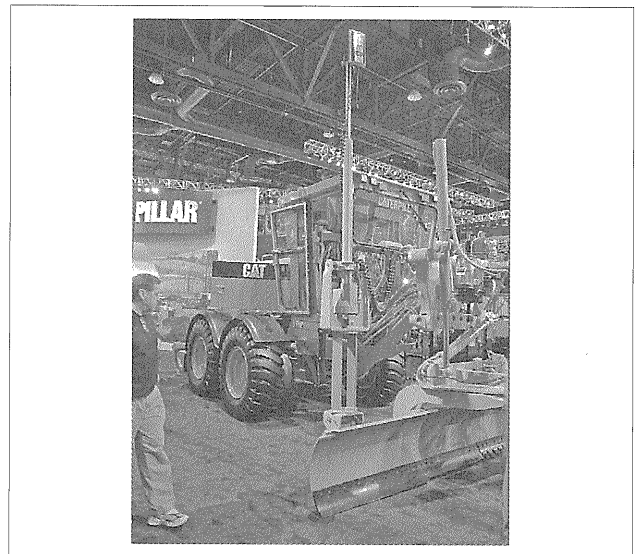
従来の建設機械に加え、鉱山機械、道路整備、舗装機械まで幅広い製品を紹介しているのが世界最大の威容を誇るキャタピラー社である。しかし写真—13にあるように、ピクニック気分で、ビール瓶を片手に大型ホイールローダのバケットに入り休憩する入場者を許容する大らかさのある企業でもある。この辺に米国や米国人の魅力の一端が窺



写真—13 バケット内で休憩する入場者と小型ホイールローダ

えるゆえんである。

「GPS グレーダ・コントロールで敷均し作業効率が40%向上する」とその効能を説明しているのが、写真—14のGPS位置測定装置活用型のグレーダの展示である。他に、「Reman」と呼んでいるターボチャージャやシリンダヘッド等の、ユニットの再生整備事業の紹介と展示があり、建設機械の維持管理事業を重視している企業の姿勢を理解できた。会場の真中に、新車並みに再生した20,132時間稼働した大型ホイールローダがWhat do I do with my 20,132 hour machine? (20,132時間も使った私の建設機械で何が出来る?)と言う、台詞を書いた看板を付けて展示してあった。メーカーが「建設機械の再生整備の活用」を強く訴えているように思われた。



写真—14 GPS位置測定装置活用型モータグレーダ

#### (2) Dillman Equipment, Inc. (写真—15)

屋外の展示場に目を移すと、砂利、アスファルト、コンクリートを扱う機械が展示されている。日本では河川からの砂利の採集の規制があるために、身近な河川敷で骨材選別機を見かける事はないが、米国では土木作業の汎用機械

の一部で、幾つものメーカーが展示している。写真-15はそのような機械の一部の移動式の大型アスファルトプラントである。写真-16はMcCloskey社製骨材選別機である。

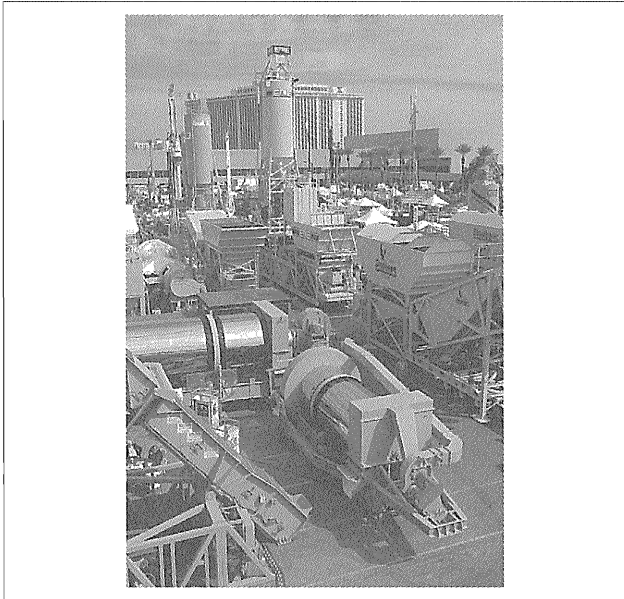


写真-15 移動式大型アスファルト合材プラント



写真-16 屋外展示のMcCloskey社製回転ふるい（トロンメル）

### (3) Gomaco (写真-17)

コンクリート舗装は、アスファルト舗装に比べ耐久性が高く、20~30年と言われている。ただし施工後の一般車両通行が出来るまでの「開放時間」はアスファルト舗装に比べて長時間必要な事から、何処でも適応される舗装では

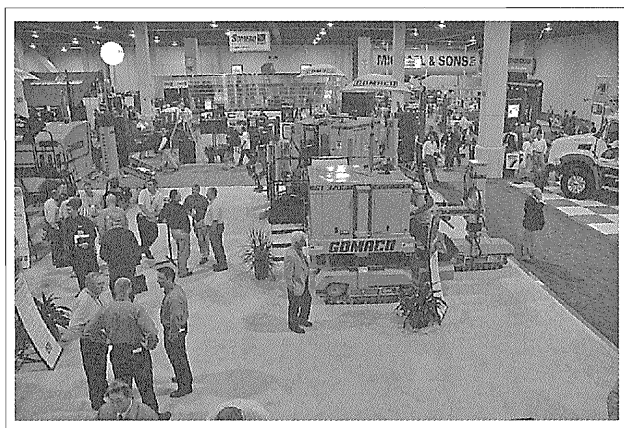


写真-17 広い展示場のコンクリート舗装機械

ないが、日本では関西国際空港のような新設大型飛行場で活躍したと言われる。コンクリートスリップオンフォームペイバの大手メーカーのGomaco社が、V2と言う新しいモデルを展示していた。

### (4) その他の製品

数ある米国製品を、少ないスペースで紹介するのは極めて難しい作業だが、参加者からの要望もあり、以下のアイテムを北米製品として最後に紹介したい。アーティキュレート・ブームと言われる高所作業車(写真-18)は日本にも導入され、多くはレンタル会社経由で使われている人気製品であると言う。



写真-18 高所作業車 (Articulating boom)

### (5) 超大型運搬車

6軸の超大型のダンプトラック(写真-19)とコンクリートミキサー(写真-20)は、重量と制動に関わる法令の問



写真-19 超大型ダンプトラック

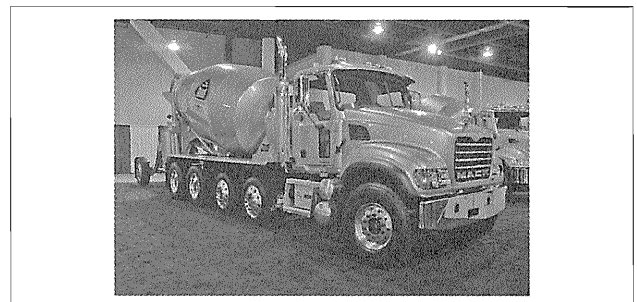


写真-20 超大型コンクリートミキサー車

題があり、最後部に張出した6軸車輪が必要であるとのこと。なんでも超の付く車両を作る米国だが、作業効率を上げ、公共事業の完工期間を短縮すると褒美がもらえるというお国柄だけに興味のある製品である。

同様に超大型トラクタを紹介する。両車両ともスクレーパーを牽引するトラクタとして紹介されていた。米国は日本と違い、広大な耕作地を有する国なのでこのような仕様の車両が要求されている。ちなみにメーカーは写真-21がCATのユニットを多用した製品で「Challenger」とあり、社名は資料に見当たらない。



写真-21 超大型ゴム履帯型トラクタ

写真-22の超大型ダブルタイヤ付きトラクタは、米国の「New Holland Construction」社の製品である。



写真-22 超大型ダブルタイヤトラクタ

## 6. 欧州企業の出展会社

日本で知られている欧州ブランドは、建設機械より道路整備機械が多い。特に以下のブランドは馴染みが深い。

- (1) Bomag (写真-23),
- (2) Dynapac (写真-24),
- (3) Fayat Group (Breining, Marini ほか),
- (4) Liebherr (写真-25),
- (5) Volvo (写真-26),
- (6) Wirtgen Group (Wirtgen, Voegelé) (写真-27, 写真-28)

BOMAG, DYNAPAC は、転圧機メーカーの代名詞のような観もするが、DYNAPAC は会場ではアスファルトフィ

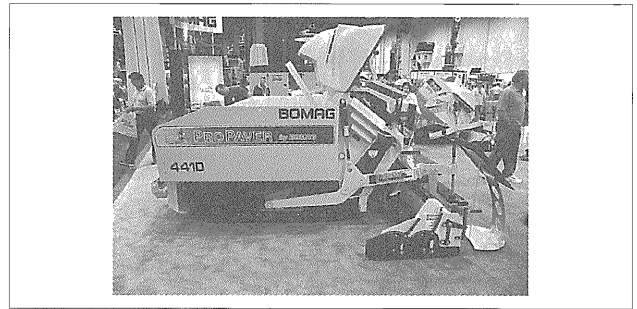


写真-23 ボマーグアスファルトフィニッシャー



写真-24 ダイナパックタイヤローラ

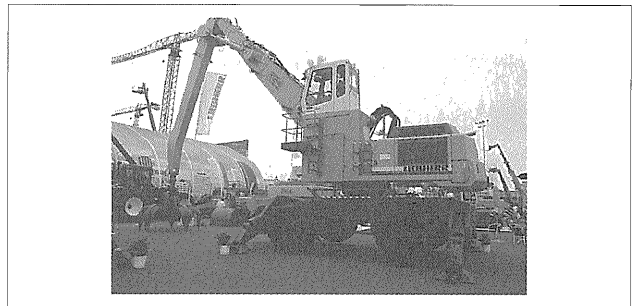


写真-25 リーヘルホイールエキスカベータ

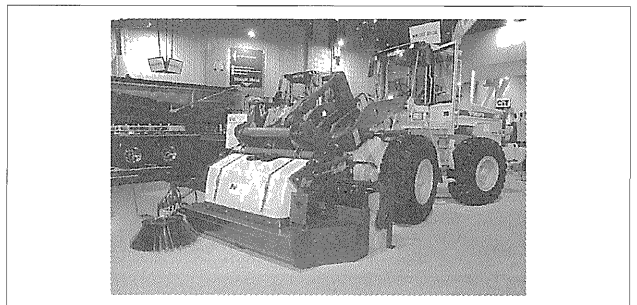


写真-26 ボルボホイールローダ+スノーバ



写真-27 フェーゲルフィニッシャー





写真-28 ヴィルトゲン路面切削機

ニッシャの積極的な展示もあり、両社間に営業姿勢の違いがある。仏国の Fayat Group はアスファルトプラント、フィニッシャ、乳剤散布機メーカーを束ねた道路整備機械を展示している。代理店経由の参加で案内資料にはその名が見当たらない。

独国の Liebherr と、日本でも馴染みの深い Volvo は欧州の総合建設機械メーカーで、幅広い機械を展示していた。特に Volvo はホイールタイプ油圧ショベル、アーティキュレート・ダンプトラック、モータグレーダやホイールローダ等の豊富なタイヤタイプの建機の出展が目をつけた。又欧州の道路整備機械、フィニッシャの Voegele、転圧機の Hamm、路面研削機の Wirtgen ブランドを率いる Wirtgen Group は豊富な道路機械だけでなく、切削用のビット・ドラムを多数展示し、路面切削刃物の重要性をアピールしていた。

### 7. 韓国・中国企業の出展会社

韓国メーカーの Hyundai, Daewoo は、屋内外で写真一



写真-29 韓国ヒュンダイの油圧ショベル展示場



写真-30 韓国ダイウーの油圧ショベル展示場



写真-31 中国建設機械メーカーの受け

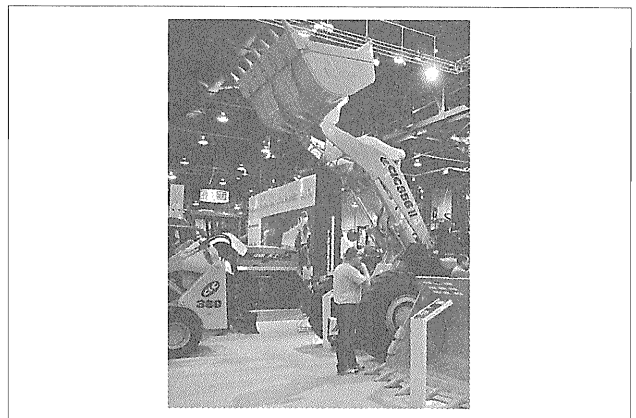


写真-32 中国建設機械メーカーのホイールローダ



写真-33 中国建設機械メーカーの油圧ショベル



写真-34 中国建設機械メーカーのモータグレーダ

29, 写真—30 のように、主に油圧ショベルを展示していた。かつて日本で油圧ショベルの出始めた昭和 50 年代の展示風景を思い起こさせるものがあった。

中国建機メーカーも写真—31, 写真—32, 写真—33, 写真—34 に紹介するように何社か出展していた。

## 8. 結びに代えて（顧客には嬉しい長寿建設機械）

日本人の寿命と同じように建設機械の寿命がどんどん延びている！。

遂に 2 万時間以上使った後、新車並みに再生した大型ホイールローダが会場に展示されていた（写真—35）。メーカーにとっては新車販売の足を引っ張る再生建設機械だが「資源の再活用」と言う今日的な課題に応えるには十分価値のある対応である。顧客にとっても悪戯に最新式の建設機械が欲しいわけではないのでメリットは十分ある。新車活用が主流の日本では、このような流れがどの程度進むのか見当はつかないが、「2 万時間以上使った建設機械でも十分



写真—35 2万時間以上稼働した再生建設機械の展示（CAT）

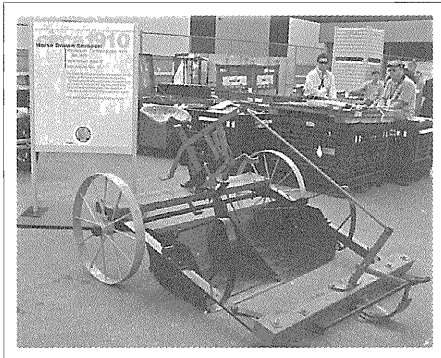
再活用出来る」とメーカーが保証している事を考えれば、一考の価値がある。建設機械の整備に縁の深い報告者は、会場でしみじみと再生機械を眺めた次第である。予算の十分無い開発途上国では日本政府の ODA 支援で調達した建設機械以外は中々新車購入が難しい中で、このニュースは明らかに朗報である。

## 9. ニューヨーク世界貿易センター跡地復興事業現場

ラスベガスの CONEXPO-CON/AGG 2005 に入る前にニューヨーク市の世界貿易センター跡地復興工事現場視察を行った。この現場（写真—36）は、既にご存知の通り、2001 年 9 月 11 日に、米国の民間機を使った「ニューヨーク世界貿易センタービルテロ爆破事件」のあった復興現場である。世界貿易センターの運営を含め、ニューヨークにある空港、港湾、それらへ乗入れする鉄道、運輸バス、橋、道路の通行料金収集など、自由の女神を中心とした 26 マイル（約 42 km）半径内の施設を管理する事業主体がニューヨーク・ニュージャージ港湾局である。今回は Mr. Peter

### ヴィンテージ建設機械の展示場

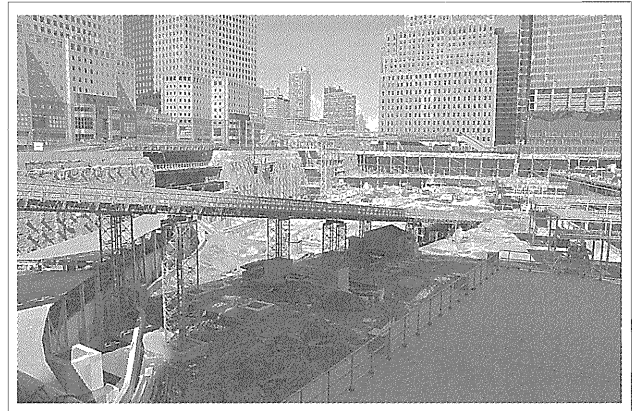
クローラローダ、ダンプトラック、ショベル、フォークリフト、馬牽引スクレーパ、トロンメル（回転ふるい）、ポータブルエンジンコンプレッサ等、建設機械草創期の名機が 10 台展示されていた。米国の歴史的建設機械協会（Historical Construction Equipment Association: <http://www.hcea.net>）



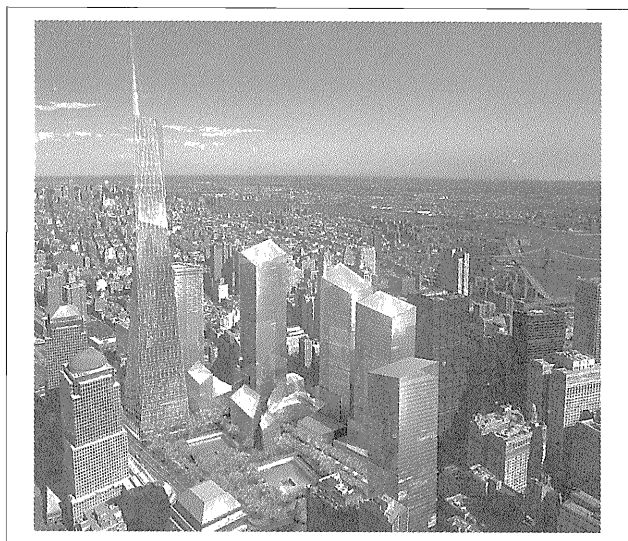
馬牽引スクレーパ



クローラローダ



写真—36 世界貿易センター跡地復興事業工事現場



写真—37 世界貿易センター完成予想図（塔は設計再検討）

L. Rinaldi, (General Manager), Jerrold Dinkels (Engineering Program Manager), Thomas L. Grassi (Project Manager) 等から復興過程, 設計思想, 今後の計画をお聞きした。又現場に出向き工事現場を視察した。9.11後の世界情勢は大きく変わり, 今日でもその影響は改善の兆しさ見え見えない。最近, 写真—37にあるシンボルタワーともいえる塔の部分を含め, 本計画に対し「安全面の問題で設計の見直しを図る」と, 新聞の報道があった。これらの変更をはじめ, 9.11にまつわるニュースは多くの殉死者(写真—38)が出るなど, 「世界の安全と平和」に関わる大きな事件なので, これを機会に今後も見守って行きたい。

## 【筆者紹介】

白井 一 (しらい はじめ)

株式会社テラグリーン

代表取締役社長

建設機械整備特級技能士



写真—38 現場脇の9.11で殉死した消防士の徽章類